

将来都市像実現に向けた目標

7

人と環境に優しい 都市空間が広がる まち

施策分野 7-1 環境保全

98

施策分野 7-2 都市環境整備

101

施策分野 7-1

環境保全



現状と課題

- 地球温暖化に起因する世界的な気候変動がもはや危機と呼ぶべき域に達している中、市民、事業者、行政が一丸となって取り組み、温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「脱炭素社会」の実現を目指していく必要があります。
- 限りある天然資源の消費を抑制するとともに、ごみの排出抑制、再生利用を図り、環境負荷を減らす必要があります。
- ごみのない清潔なまちを保つことは、快適な日常生活を送ったり、都市の魅力を高めるために重要です。
- 市街化の進行に伴う緑地の減少は、ヒートアイランド現象[※]の発生につながります。緑地は動植物の生息場所として、また、市民に安らぎを与える空間としてなくてはならないものであり、災害時の避難場所等の役割も果たすことから、適切な状態で維持していく必要があります。
- 河川の水質は保たれ、大気汚染も改善してきています。生活環境に関わる苦情のうち、騒音等、横ばいの推移を示す項目はあるものの、全体的な件数は減少してきています。

[※]ヒートアイランド現象…都市の気温が周囲の郊外よりも高くなる現象です。主な原因として、建物や工場、自動車などからの排熱の増加や、アスファルトやコンクリート面の拡大と緑地の減少などが挙げられます。

施策の方針

- 再生可能エネルギーの利活用促進などを通して温室効果ガス削減を積極的に推進します。
- ごみの減量化・資源化により循環型社会の形成に向けた取り組みを進めます。
- 不法投棄やごみのポイ捨てなどの防止に取り組み、清潔なまちを維持します。
- 緑地について、自然な状態を維持しながら活用することを基本としつつ、ふるさと軸上の大規模緑地に対しては、所有者や近隣住民の理解を得ながら保全していきます。
- 河川や大気の汚染を防ぎ、良好な状態を維持できるように取り組みます。
- 市民一人ひとりによる環境保全に配慮した生活の実践に向け、周知啓発を行います。

めざす姿と主な取り組み

めざす姿 7-1-1

脱炭素社会の実現に貢献している

主な取り組み

- 省エネルギー行動等についての意識啓発
- 再生可能エネルギーの導入への支援
- 公共施設の省エネ化

成果指標	現状	目標
省エネに取り組んでいる市民の割合	44.1%	向上
温室効果ガス排出量の削減率（2013年度比）	26.2%	43.8%

めざす姿 7-1-2

清潔なまちが維持されるとともに、循環型社会が実現されている

主な取り組み

- ごみの分別と資源の分け方・出し方のマナー向上に向けた市民や事業者への啓発
- ごみや資源の回収方法等に関する課題への対応
- 不法投棄のパトロールの実施及びごみのポイ捨て防止に向けた啓発
- 市民や事業者との連携による美化活動の推進及び環境意識の向上

成果指標	現状	目標
ごみの分別をしている市民の割合	88.9%	向上
散乱ごみが少なく、きれいだと思う市民の割合	61.9%	向上
市民一人1日あたりのごみ排出量	405g	400g
リサイクル率	28.4%	29.6%
美化推進月間ごみ回収量	5.83t	5.54t

めざす姿 7-1-3

緑地が保全されるとともに、市街地の緑化も進んでいる

主な取り組み

- 大規模緑地の適切な保全
- 住宅や事業所への緑の配置の促進

成果指標	現状	目標
緑が多いと思う市民の割合	59.1%	向上
保全を図っている緑地面積	84.5ha	84.5ha

めざす姿 7-1-4

深呼吸したくなる空気や、 きれいな水に囲まれて生活している

主な取り組み

- 大気や水質などを汚染する物質への対応
- 生活排水の適切な処理及び下水処理施設の維持管理
- 市民に向けた適切な排水の啓発
- 下水道事業の安定的な運営

成果指標		現状	目標
川などの水や大気の状態が良好だと思う市民の割合		38.4%	向上
河川の水質の基準とされている生物化学的酸素要求量（BOD）	境川	1.4mg/l	毎年度 3.0mg /l 以下
	引地川	1.1mg/l	毎年度 2.0mg /l 以下
環境基準適合率		94.6%	95.0% 以上
公害苦情への対応件数		79件	75件
下水道出前授業の実施校数		20校	毎年度 20校

関連する個別計画

- 大和市環境基本計画
- 大和市地球温暖化対策実行計画
- 大和市一般廃棄物処理基本計画
- 大和市分別収集計画
- 大和市一般廃棄物処理施設（ごみ処理施設）維持補修計画
- 大和市緑の基本計画
- 大和市公共下水道全体計画
- 大和市公共下水道事業計画
- 大和市下水道経営計画

施策分野 7-2 都市環境 整備



現状と課題

- 少子高齢化の進展や自然災害の発生などを見据え、中長期的な視点でまちづくりを進めていくことが必要です。
- 近年、鉄道駅を中心に都市機能を集約して拠点性の向上を図り、コンパクトな都市空間を形成したことにより、快適性や利便性の向上を実現できましたが、今後はまちなかに滞在する人を増やし、にぎわいを生み出していくことが求められます。
- 市民が心地よく快適に暮らせる住環境をつくる必要があります。
- 高齢化のさらなる進展を見据えながら、より多くの市民が気軽に外出できる環境を整える必要があります。
- コミュニティバスについては、利用状況や適正な受益者負担などを考慮した事業実施が求められます。
- 公園は都市生活を快適に送るための憩いの場であり、市民の健康づくりや、市街化が進んだ大和市のこどもの遊び場としても重要な役割を果たすため、様々な世代が利用しやすい環境を整備していく必要があります。
- 重要な都市基盤である道路や公園等の都市インフラの多くが、都市化が進んだ昭和50年代から平成の初頭にかけて造られており、その老朽化に対応していく必要があります。

施策の方針

- 市域全体で市街地の適切なあり方を見極めながら、都市機能の集約や居住の誘導を図ります。
- 鉄道駅を中心に向上した拠点性を生かしながらまちなかの滞在快適性の向上やにぎわいの創出に取り組みます。
- 良好な景観を形成するとともに、周辺環境と調和した住環境を整えます。
- 令和9（2027）年の国際園芸博覧会やその後のテーマパークの開業の影響も考慮しながら、交通ネットワークの形成、歩道を含む道路の維持・整備を、総合的に進めます。
- 今後の利用状況等を考慮してコミュニティバスを運行します。
- 様々な世代のニーズに対応するように公園を整備します。
- 老朽化の程度等に基づき各種都市インフラを維持・更新します。

めざす姿と主な取り組み

めざす姿 7-2-1

地域の特性を生かした街が形成されている

主な取り組み

- 地域特性を生かした市街地形成や大規模開発等に合わせた都市基盤整備の推進
- にぎわいの拠点における滞在快適性向上に向けた空間づくりの促進
- 市街地整備が進む地区におけるまちづくりのルールの策定支援
- 市街地における農地の適切な保全
- 空き家等の適正管理に向けた対応及び所有者や管理者への意識啓発

成果指標		現状	目標
良好な街並みが形成されていると思う市民の割合		43.6%	向上
地区計画、建築協定、地区街づくり協定などルール化された面積（累計）		138.8ha	154.2ha
中央林間駅、大和駅、高座渋谷駅の1日あたりの乗降客数の合計		426,447人	432,844人
北・中・南部地域の人口比率	北部	48.6%	48.6%
	中部	29.3%	29.3%
	南部	22.1%	22.1%

めざす姿 7-2-2

気軽に移動できる環境が整っている

主な取り組み

- 公共交通ネットワークの維持
- コミュニティバスの運行
- 快適な自転車利用環境の確保
- 歩道の整備や交差点の改良
- 都市計画道路*の整備の推進

成果指標	現状	目標
公共交通機関を利用しやすいと思う市民の割合	70.6%	向上
徒歩や自転車、車でも快適に移動できると思う市民の割合	63.0%	向上
都市計画道路の整備率	65.1%	65.5%
コミュニティバスの1日あたりの利用者数	1,979人	2,009人
放置自転車等の移動台数（自転車等放置禁止区域）	420台	252台

*都市計画道路…都市計画法に基づいて、あらかじめ位置、経路、幅員などが決められた、都市の骨格となり、まちづくりに大きく関わる道路のことです。

めざす姿
7-2-3

公園を快適に利用している

主な取り組み

- 様々な世代のニーズに対応した公園の整備
- 公園の適切なメンテナンスや計画的な修繕

成果指標	現状	目標
公園を快適に利用できると思う市民の割合	54.3%	向上
市民1人あたりの都市公園面積	3.39㎡	4.00㎡以上

関連する個別計画

- 健康都市やまと都市計画マスタープラン
- 大和市立地適正化計画
- 大和市景観計画
- 大和市空家等及び所有者不明土地対策計画
- 中央林間地区街づくりビジョン
- 大和市総合交通施策
- 大和市市営住宅長寿命化計画
- 大和市公園施設長寿命化計画
- 大和市舗装修繕計画
- 大和市橋りょう長寿命化修繕計画
- 大和市横断歩道橋長寿命化修繕計画
- 大和市道路附属物維持管理計画
- 大和市道路構造物長寿命化修繕計画
- 大和市道路構造物維持管理計画

